

生田邦夫教授退職記念号によせて

札幌学院大学人文学部長

人文学会長 杉山吉弘

2001年3月、人文学部のみならず大学の教育・研究の歴史に大きな貢献を果たしてきた生田邦夫先生をお送りすることになった。宗教学が専門分野であった生田先生は、人間尊重という本学の建学の精神を文字通り体現し、さらに宗教学と人間学を総合する先生の学問的企図は、「真に人間尊重の立場に立つ総合的な人間の科学とそれにもとづく教育システムの創造」という人文学部設立の趣旨を、研究・教育の営みのなかで具体的に実践されていたように思われる。本学の伝統を具現していた生田先生が本学を去られるに当たり、先生の存在の重さを改めて寂しさとともに実感すると同時に、私たち学部の構成員は、人間尊重の立場に立つ教育と研究という本学の建学の理念とそれを実現していく気概とを、再度確認しなければならないと考える。

人間学を追究しておられた生田先生が、幅広い教養と人間性の涵養を教育目標とする本学のいわゆる一般教育の充実に、一貫して深く関心をもってかかわっておられたのも当然のことであった。先生は一般教育の学会に早くから個人会員として参加し、本学のもっとも難しい課題であった一般教育改革を先導しておられた。私自身、教務部長として一般教育改革にかかわったとき、先生の研究室に資料を借りにいった覚えがある。本学の一般教育は、現在、全学共通教育に名称を変えているが、もう一度新たな改革が必要な時期にきているように思われる。いかなる教育の理念と目標にもとづいて、全学共通教育が学生のために実施されるべきなのか。根本的な反省が要求されているのである。生田先生の足跡を振り返りながら、私たちは改めて改革の勇気を奮い起こさなければならないと考える。

一般教育とは別に専門分野では、生田先生は人文学部人間科学科の「思想・文化と人間」コースに所属して、学生の教育指導に当たってきました。また、商学部第二部商学科の教育にも熱心に携わっていたかと思われまます。公務分掌では、全学の就職部長をなさっていたときが、もっとも多忙な時期ではなかったでしょうか。先生は問題を考える際にいつも基本になる理念から論を説いていたように思います。私のようなせつかちな人間には、いつも先生に、もっと根本的なところから考えなさい、とお叱りを受けていたように思います。特に先生がたえず主張されていた教養教育の重要性という教えを、いかなる形態であれ私たち教員は大切に維持していかなければならないと考えます。

最後にこの巻頭言をかりて、先生が私たちの大学と学部のために長年にわたって御尽力いただいた御苦勞に改めて心から感謝を述べるとともに、今後の先生の御発展を祈念いたします。